

# 西日本インカレ（合同研究会）2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報に記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ アイチダイガク	フリガナ ケイエイガクブ	フリガナ タメヒロゼミナール
愛知大学	経営学部	為廣ゼミナール

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	パワーポイント内の 動画使用（有・無）
フリガナ ポバミルキー	フリガナ イシコマコト	5人	無
BOBAAmilky	石子真		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）

研究テーマ（発表タイトル）
旅館の利用者を増やすには？

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

## 1. 研究概要（目的・狙いなど）

現在、旅館は減少傾向にある。旅館の施設数は1980年に83,226軒であったが、2015年に40,661軒となり、約4万軒減少したことになる。減少の大きな要因には旅行形態が社員旅行やツアー旅行などの団体型旅行から家族や夫婦などの個人型旅行に変化したことが挙げられる。また、旅館の利用者数はここ数年間変化をしていない。しかしこのような状況では、日本の人口が減っていく中で、利用者数の減少が起こることが予想される。

このようなことから、本研究の狙いは旅館の利用者を増やすための新たなターゲットを定め、旅館の発展に貢献することである。

## 2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

旅館というのは、1961年には高度経済成長期の社員旅行などの団体客が主体で、1971年には家族が主体となり、市場を形成した。そのため、団体客を受け入れるために大型の旅館が数多く建設された。しかし、1981年からは女性やカップルなどが新しい市場を形成し、団体型から個人型へ旅行形態がシフトした。これは1グループあたりの人数が時代を経るごとに減少していることを示している。このような時代の流れに乗り成功している旅館もある一方で、現在でも多くの旅館が大人数をターゲットとしたプラン展開を行っている。つまり、時代に取り残された旅館が未だに多く存在しているのである。

以上のようなことから、旅館が今後も存続していくためには新規顧客を取り入れる必要性があると考えられる。

### 3. 研究テーマの課題

旅館が抱えている問題点として「平日や閑散期の利用が少ない」、「人手が不足している」という二点に着目した。この二点より、休日には現在の家族や夫婦などの利用客が部屋を埋めているため、同じ休日に利用客を増やすことは提案できないこと。また、人手不足ということを考慮すると、団体型利用客などの接待は多くの従業員を必要とするため、団体型利用客を増やすことは実現性に乏しいといえる。このようなことから、旅館の利用者を増やすということを考えた際には平日や閑散期に旅館を利用し、人手をあまり必要としない利用客が新規顧客として適しているといえる。

### 4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

旅館の利用者の同行形態から、一人旅行者、友人との旅行者、団体旅行者が旅館をあまり利用していないことが分かった。そこから国内旅行全体の同行形態を参照したところ、一人旅行者は増加傾向であり、友人との旅行者、団体旅行者は減少傾向であることが分かった。そのため、増加傾向の一人旅行者に着目し、一人旅に行く理由を調べたところ、「リフレッシュしたいから」という回答が一番多く、ここからストレスを感じている人が一人旅をするのではないかと私たちは考えた。ストレスは性別、年齢別で見ると20代から50代の女性を感じやすいことが分かった。このストレスに対し、旅館は癒しを提供しており、一部の顧客ニーズと旅館のサービスが合致している。

また、一人旅行者は休日や繁忙期などを避け、平日や閑散期を埋めてくれるだけでなく、一部屋に一人の宿泊のため団体客と異なり接客のための従業員をあまり必要としないという特徴もある。しかし、旅館の一人旅行者は増えない。それは旅館が一人旅行者に対応していないからである。なぜ、一人旅行者に対応していないのか。その大きな要因には利益確保ができないとする旅館側の主張がある。このように主張する理由には旅館の規模、立地などにもよるが、料金設定が関係している。部屋代が固定である旅館としては利用人数が一人でも、部屋代分の金額を徴収すれば良いので一人旅行者にも対応しやすい。しかし、利用人数で料金を設定している旅館は最低利用人数が二名からがほとんどであり、二名を下回ると利益を確保できないのである。このような旅館側の主張を考慮し、現在、どういった旅館に一人旅行者を取り入れることを提案するのか、それを検討している。

### 5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

まず、旅館の現状を知るために下呂温泉の旅館に聞き込みを実施した。それに加え、全国各地の旅館へ電話をし、旅館が抱えている課題、利用している年齢層や同行形態を知った。

そして、ターゲットを女性の中でも絞り込むためにストレス解消法や旅館の利用頻度に関する消費者アンケートを実施した。そこから、私たちは女性のストレス解消法として「温泉旅行に行きたいのに行けていない」という事実と、「旅館を一人で利用したいという女性が25%存在すること」が分かった。ここから、25%と低いものの確かに旅館を一人で利用したいというニーズは存在し、20代から50代の女性の人口で拡大推計をするとこのようなニーズを持つ女性は約747万人存在する可能性が示された。

### 6. 結果や今後の取り組み

現段階では確かに旅館を一人で利用したい女性は存在し、旅館が対応をすることで利用者は増えると考えられる。

今後の取り組みとしては先に挙げた旅館の料金設定の問題を上松屋という旅館へのヒアリングから解決したいと考えている。この上松屋は一人旅行者を主に取り入れており、新たな料金設定のパターンを用いている。それが上松屋式「一人旅受入方程式」である。この受入方程式を用いて、平日は一人旅行者で宿泊者を埋め、休前日は定員の8割を一人旅行者、2割を複数人数客にし、宿泊単価を上げることなく集客に成功している。このような成功事例のある旅館にヒアリングをし、最終的な提案の参考にしたいと考えている。

また、先ほども述べたようにどのような旅館に一人旅行者を取り入れてもらうのかを検討していくとともに、実際に提案をして旅館側がどのような反応を示すのかを見ていきたい。

### 7. 参考文献

・厚生労働省 衛生行政報告例 <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001031469>（参

照 2017/11/12)

- ・旬刊旅行新聞 <http://www.ryoko-net.co.jp/?p=13431> (参照 2017/11/12)
- ・国土交通省 日本の国内旅行の需要の動向 <http://www.mlit.go.jp/common/000025543.pdf>(参照 2017/11/12)
- ・観光庁宿泊統計調査より作成 <http://www.mlit.go.jp/kankocho/siryoutoukei/shukuhakutoukei.html>(参照 2017/11/12)
- ・厚生労働省 旅館業に関する規制について <http://www.mlit.go.jp/common/001111877.pdf>(参照 2017/11/12)
- ・じゃらん net ホテルくさかべアルメリア <https://www.jalan.net/yad318730/> (参照 2017/11/12)
- ・じゃらん宿泊旅行調査 2017 より作成 [http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/jalasyuku\\_20170725.pdf](http://jrc.jalan.net/jrc/files/research/jalasyuku_20170725.pdf) (参照 2017/11/12)
- ・望川館 HP (予約ページ) <https://www.bosenkan.co.jp/> (参照 2017/11/12)
- ・女性の一人旅への動機と不安 <http://www.comp.tmu.ac.jp/kurata/research/MKubomuraNYabeYKurata-STI12.pdf> (参照 2017/11/12)
- ・ひとり旅に関するアンケート調査 [file:///C:/Users/aichi-u/Downloads/00001\\_2507.pdf](file:///C:/Users/aichi-u/Downloads/00001_2507.pdf) (参照 2017/11/12)
- ・河井英子「心の健康を考える」 <file:///C:/Users/aichi-u/Downloads/KJ00005088193.pdf> (参照 2017/11/12)
- ・株式会社マクロミル働く男女 1000 人ストレス実態調査 2015  
<https://monitor.macromill.com/researchdata/20151127stress/20151127stress.pdf> (最終アクセス日 2017 年 11 月 12 日)
- ・厚生労働省国民生活基礎調査 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa16/dl/04.pdf> (参照 2017/11/12)
- ・「癒し」は科学で手に入る 2014 年 北岡哲子 幻冬舎ルネッサンス新書
- ・温泉まちづくり 2012 年度温泉まちづくり研究会ディスカッション記録 <https://www.jtb.or.jp/wp-content/uploads/2016/07/onmachi2012.pdf> (参照 2017/11/12)
- ・水戸屋 HP <http://www.mitoya-group.co.jp/> (参照 2017/11/12)
- ・有馬温泉欽山 HP <http://www.kinzan.co.jp/> (参照 2017/11/12)
- ・総務省統計局人口推計 <http://www.stat.go.jp/date/jinsui/pdf/201710.pdf> (参照 2017/11/12)

#### <企画シート作成上の注意>

- ※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、審査を行っていただく大学教員・企業の方々に事前にお渡しいたします。
- ※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、翌年 3 月に公開予定の「大会結果 Web ページ」に掲載されます。
- ※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。
- ※本企画シートは、作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。事務局から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。
- ※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、西日本インカレ事務局にご連絡ください。事務局より手続きについてご連絡をさせていただきます。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。
- ※企画内容は、未発表の（過去に他誌・HP などに発表されていない）ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。
- ※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。
- ※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。
- ※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。
- ※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。
- ※プレゼンツールを使用する場合は、必ず使用するツール名をご記入ください。企画シートにご記入が無い場合は、発表当日の使用はできません。あらかじめご了承ください。

---

↑ここまでを 4 ページ以内に収めて、提出してください↑